



— 発 行 者 —
 一般社団法人 鹿児島県建築協会
 〒892-0853 鹿児島市城山町2-13
 電話 099-224-5220 FAX 099-227-5479
 http://www.kagoken.net/
 E-mail: info@kagoken.net

新年を迎えて

一般社団法人鹿児島県建築協会 会長 中村 明人



明けましておめでとう
 ございます。

皆様には、健やかな新年をお迎えの事とお喜び申し上げます。

また、平素から、当協会の諸活動に対し温かいご理解・ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は大河ドラマ「西郷どん」の放映や「明治維新150年」を記念したイベント等の効果で、県内各地において多くの観光客で賑わいました。建築工事では、庁舎、学校、住宅などの工事が発注されており、その他、鹿



政府が平成30年度の世界自然遺産登録推薦候補とすることを決定した奄美大島、徳之島の動植物や亜熱帯の森。右上から時計回りにマングローブの森、アマミノクロウサギ、金作原、リュウキュウハグロンボ、亜熱帯照葉樹の山々、アカショウビン (写真提供:鹿児島県)

児島市内の再開発事業など、数件の大型工事も予定されておりあります。ただ工事量の増加は喜ばしいことですが、工事が短期間に集中的に発注されるため、技術者・技能者の不足が深刻になっており、その他にも施工単価の高騰や工期的な要因もあることから受注対応の面で懸念されております。

その様な中、建築業界として取り組むべき課題も山積しておりますが、中でも喫緊の課題である人材育成・担い手確保の問題、長時間労働の是正や適正利潤の確保等が挙げられます。まず、人材育成・担い手確保については、国は平成二十六年に「担い手三法」を改正し、若手技術者や技能者の入職促進を図つてまいります。

次に、週休二日制を含めた労働環境の整備については、働き方改革の重要なポイントであり、国は長時間労働の是正、給与・社会保険、生産性向上の三分野で新たな施策を展開しております。我々業界も、五年の猶予期間内の完全実施に向け努めていきたいと思っております。

また、適正工期の設定や工事の平準化、適切な労働単価など、国・地方公共団体・民間事業者が一体となり実現に向けて進めたいと思っております。

平成三十一年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

一般社団法人鹿児島県建築協会におかれましては、安全かつ適正な施工を通じて、本県における建築物の質の向上と地域の建築業の健全な発展のために御尽力いただき、深く敬意を表します。

また、「社会に貢献する力強い地場産業を目指して」をメインスローガンと



新しい力強い鹿児島の実現に向けて

鹿児島県知事 三反園 訓

鹿児島県は、地域貢献のボランティア活動等に積極的に取り組まれており、心から感謝を申し上げます。

さて、県では、昨年策定した「かごしま未来創造ビジョン」を指針として、「オール鹿児島」で「鹿児島に生まれてよかった。鹿児島に住んでよかった。」と実感できる鹿児島を目指し、魅力ある鹿児島県の素材「ポテンシャル」を最大限に生かしながら、各般の施策を積極的に進めているところです。

鹿兒島港本港区エリアまちづくりについては、国際的な観光都市にふさわしい「来て見て感動する観光拠点の形成を図るため

今年度中にグラウンドデザインを策定したいと考えております。

鹿児島市南部地区における特別支援学校の整備については、昨年十月に策定した基本構想を踏まえ、農業試験場跡地での二〇二三年四月からの供用開始に向けて、基本設計に着手することとしております。

鹿兒島の新しいシンボルとなる鶴丸城御楼門については、来年三月の完成に向け、官民一体となって着実な建設に努めているところです。

このほか、民間建築物の耐震化や公共施設の長寿命化、効率的な利活用の推進に取り組むこととしており、これらの施策推進のためには、会員の皆様の高い技術力を十二分に発揮していただくことが極めて重要でありますので、ますますの御支援、御協力をお願い申し上げます。

信するイベント等にオール鹿児島で取り組む、市民の皆様にとりまして、改めて郷土に対する誇りや愛着を持っていただく契機になったものと考えております。

さて、今年度は歴史的な皇位継承の年にあたり、平成の時代を歩んできた私共にとりまして、大きな区切りを迎えることとなります。

この様な中、本市は人口減少問題を克服し、将来に向けて持続可能な発展を遂げていくため、「第五次総合計画後期基本計画」や「地方創生総合戦略」に基

づき、「豊かさ」実感都市がごしまの実現に向け、施策のさらなる推進を図っていく必要があると考えております。

そのため、郷土への誇りや愛着の心を育み、まちづくりの担い手となる人材を育成することにも、本市の豊かな地域資源や充実した都市機能を活用する中で、誰もが健康で生きがいを持つて健やかに暮らせるまちづくりや賑わいと回遊性のある都市空間づくりなどを進めてまいります。

また、地震による建築物倒壊などの被害から市民の生命及び財産を保護するため、昨年八月に改定した「鹿児島市耐震改修促進計

画」に基づき、既存建築物の耐震診断及び耐震改修の計画的な促進を図ってまいります。

さらに、健全財政の維持や環境負荷の軽減に配慮しながら、これまで整備してきた施設の長寿命化や省エネルギーへの転換を積極的に取り組むとともに、子育て世帯向けの市営住宅の整備や住宅リフォームによる良質なストックの形成の促進等についても、引き続き進めてまいります。

今年度は、ラグビーワールドカップが我が国で初めて開催されます。

平成のその先に向かつて、市民の皆様とともに、情熱とチャレンジ精神あふれるスクラムを組み、希望に満ちた新時代へのトライを目指して、力強く進んでまいります。

本年も市政の推進により、一層のご理解とご協力を賜りますようお願いいたしますとともに、新しい年が未来への夢と希望の持てるすばらしい年となりますよう、心からお祈り申し上げます。新年の挨拶といたします。

希望に満ちた新時代へ

「豊かさ」実感都市「かごしま」の実現

鹿児島市長 森 博幸



平成三十一年の新春を迎え、皆様にご慶びを申し上げます。

日頃から皆様方の温かいご理解とご協力を賜り、市政が順調に進展しておりますことに深く感謝申し上げます。

昨年は、明治維新から百五十周年という節目の年にあたり、「維新のふるさと鹿児島市」を国内外に広く発

信するイベント等にオール鹿児島で取り組む、市民の皆様にとりまして、改めて郷土に対する誇りや愛着を持っていただく契機になったものと考えております。

また、地震による建築物倒壊などの被害から市民の生命及び財産を保護するため、昨年八月に改定した「鹿児島市耐震改修促進計

画」に基づき、既存建築物の耐震診断及び耐震改修の計画的な促進を図ってまいります。

さらに、健全財政の維持や環境負荷の軽減に配慮しながら、これまで整備してきた施設の長寿命化や省エネルギーへの転換を積極的に取り組むとともに、子育て世帯向けの市営住宅の整備や住宅リフォームによる良質なストックの形成の促進等についても、引き続き進めてまいります。

さて、今年度は歴史的な皇位継承の年にあたり、平成の時代を歩んできた私共にとりまして、大きな区切りを迎えることとなります。

この様な中、本市は人口減少問題を克服し、将来に向けて持続可能な発展を遂げていくため、「第五次総合計画後期基本計画」や「地方創生総合戦略」に基

づき、「豊かさ」実感都市がごしまの実現に向け、施策のさらなる推進を図っていく必要があると考えております。

そのため、郷土への誇りや愛着の心を育み、まちづくりの担い手となる人材を育成することにも、本市の豊かな地域資源や充実した都市機能を活用する中で、誰もが健康で生きがいを持つて健やかに暮らせるまちづくりや賑わいと回遊性のある都市空間づくりなどを進めてまいります。

新年のご挨拶

鹿児島労働局長 小林 剛



明けましておめでとうございます。

新年を迎え、一般社団法人鹿児島県建築協会並びに会員の皆様のご繁栄を心よりお祝い申し上げます。

また皆様には、日ごろから労働行政に多大なるご理解とご協力をいただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

さて、鹿児島県の雇用情勢は、県内景気が緩やかに回復しつつある中で、有効求人倍率が、高い水準を維持するなど、引き続き改善しているところであります。

このような状況の中、鹿児島労働局としては、総合労働行政機関としての役割を果たすべく、

「働き方改革」及び「女性活躍」の推進、「雇用の安定」、「労働条件確保対策」、「安全衛生対策」、「労働保険料の適正徴収」等各種施策を展開しているところであります。

特に、昨年成立した働き方改革関連法の施行にあたって、法の周知に努めることはもとより、各種助成金をはじめとす

る、中小企業、小規模事業者支援対策等にも努めているところであります。また、建設業における労働災害は、この数年高止まりの状況にあり、建築工事業においても前

年より増加傾向にあるなど大変憂慮される状況が続いております。当局においては、平成三十年度から新たに第十三次労働災害防止計画がスタートしており、同計画に基づく労働災害防止対策を推進することと

して、昨年成立した働き方改革関連法の施行にあたって、法の周知に努めることはもとより、各種助成金をはじめとす

新年のご挨拶

九州地方整備局鹿児島管轄事務局長 浅野 智



明けましておめでとうございます。

いま。平素より官庁管轄事業の推進にご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

近年、日本各地で大規模災害が続き、官庁管轄事業においても、防災・減災への一層の取組が重要と捉えられているほか、環境負荷低減、地域への貢献、既存庁舎の老朽化対策、長寿命化などの課題にも応える必要

があります。鹿児島市内では現在、防災拠点となる港湾合同庁舎の建

設工事を今年3月の完成に向けて進めており、関係する建設業者の皆様には、日々のご尽力に改めて感謝申し上げます。また、第三地方合同庁舎の建設工事も始まり、市の景観形成重点地区候補地のひとつとな

っており、特に「足場からの墜落・転落災害防止総合対策推進要綱」に基づく「より安全な措置の一層の普及など建設業の皆様が引き続き安全で安心して健康に働くことができるよう、建設業を所管する関係行政機関、貴協会を始めとする業界団体や労働災害防止団体とともに効果的な労働災害防止対策を展開してまいります。

さらに、長時間労働による過労死など心身の健康障害は一人たりとも発生させてはならないとの強い意志で、本年四月一日から施行される年次有給休暇の五日取得義務などを内容とする改正労働基準法や、長時間労働の是正のため、受注者発注者が相互の理解と協力の下に取り組みべき事項をまとめた建設工事における適正な工期設定等のためのガイドライン」の周知にも取り組んでまいります。

本年も、関係者の皆様が一斉協力され、無事故でより良い職場環境を築かれますことを祈念して、新年のごあいさついたします。

成感のある働き方を表現するため、品確法に基づき品質・コスト・工期のバランスに留意し、安全確保も含めて事業を適切に進めるほか、工事現場での週休二日推進、ICT等の施工合理化技術の活用なども始めつつあります。

また、地元で建築分野を専攻する学生を対象に現場見学会を開催して建物づくりの魅力を発信するほか、良質な公共建築づくりへの貢献を目指して、県や市町村の管轄担当部署に対しても、国の技術基準の普及促進、「公共建築相談窓口」での個別対応により、少しでも支援できればと思っております。

これらの取組を進めるため、貴協会会員の皆様方のご理解とご協力のほど、引き続きよろしくお祈りいたします。最後に、皆様方にとりまして幸多き年となりますことを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

新春を迎えて

鹿児島県土木建築技監 村田 英樹



新年、おめでとうございます。

皆様には、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より、本県建築業の健全な発展や地域貢献のボランティア活動に御尽力いただいておりますことに心から敬意を表します。

県内経済については、緩やかな回復が続いているところですが、建築業界においては、生産年齢人口の減少により、担い手不足が危惧されております。

このため、県におきましては、管轄工事における働き方改革も踏まえ、労務単価

の引き上げ、適正な工期設定、社会保険未加入対策の強化や施工時期の平準化に向けた発注計画などに努めているところであります。

県有施設の整備については、昨年、鹿児島中央高校、鹿児島工業高校及び鹿児島南高校の校舎改築や平川ヨットハーバー管理棟、県営住宅原良団地五期などの工事を発注しました。

今後は、名瀬港旅客待合所や阿久根食肉衛生検査所などの工事発注を予定しておりますので、引き続き御協力をお願いいたします。

建築物の安全性確保については、ホテル・旅館等の大規模建築物の耐震改修促進を図っているところでありますが、昨年六月に発生した大阪府北部地震によるブロック塀の倒壊被害を受け、ホームページ等で塀の安全点検や安全対策の周知を図ると

ともに、引き続き、第二次総合計画「住んでよし 訪ねてよし ふれあいあふれるまち」ひびきの将来都市像に向けた施策に取り組んでまいります。

移住定住促進対策におきましては、対象地域において、市外から転入し住宅を新築又は購入した世帯を支援するほか、空き家等改修事業など、引き続き、支援を進めてまいります。

建築分野におきましては、平成三十一年度も吹上

るに、振興局等において相談窓口を設置いたしました。会員の皆様には、所有者等からの相談等の際には、適切な安全対策の実施に御協力をお願いします。

良好なまちづくりについては、工事が本格化している鹿児島市中央町一九・二〇番街区及び千日町一・四番街区の再開発事業を支援しており、引き続き、鹿児島市とも連携して事業促進に努めてまいります。

建築分野におきましては、平成三十一年度も吹上

新春のご挨拶

南九州市長 塗木 弘幸



明けましておめでとうございます。

一般社団法人鹿児島県建築協会会員の皆さまにおかれましては、輝かしい平成三十一年の新春を健やかにお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。

また、日頃より南九州市政の発展及び円滑な推進のために、格別の御支援御協力を賜っておりますことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

すとともに、貴協会が会員間の相互扶助の精神にのっ

り、一致協力して建設業に関する調査、研究及び建設工事の適正な施行を推進し建設業の健全な発展を図り公共の福祉の増進に資することを目的として、自治体等との防災協定締結による災害時の対応やボランティア活動といった地域貢献、さらに建築業界の将来を支えていく人材の育成等、幅広く活動されていることに深甚の敬意を表します。

さて、南九州市は、平成十九年十二月に頰娃町、知覧町、川辺町の合併により誕生して以来、第二次南九州市総合計画を定め各種の施策・事業を推進して参りましたが、近年、本市を取り巻く環境は、本格的な人口減少社会への突

入や社会・経済のグローバル化の進展等、大きく変化しており、市民のニーズや価値観、地域の課題等も多様化しております。こうした変化に対応するため、本市が目指すべき姿と進むべき道筋を明らかにし、市民の願いを実現する持続可能なまちづくりの方向を示す指針として「人と自然が共生する活気あふれる 住みよ

いまち 南九州市を将来の目指すべき都市像に掲げ、昨年三月に第二次南九州市総合計画を策定いたしましたところでございます。

この都市像の実現に向け、全力で取り組む所存でございますので、今後とも一層の御支援御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、貴協会の益々の御発展と会員各位の御健勝と御活躍を祈念申し上げます、新年の挨拶いたします。

新年のごあいさつ

大崎町長 東 靖弘



明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、夢と希望に満ちた平成三十一年の新春を健やかに御迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと六月から七月にかけての西日本豪雨や、九月の北海道胆振東部地震などにより多くの方々がお亡くなりになられたという痛ましい災害が相次いで発生した年でございま

した。

した。

今もなお、住み慣れた住居を追われ、多くの方々が不慣れた避難所生活を余儀なくされていることを思いますと心が痛みます。お亡くなりになられた方々及びご遺族、多数の被害者の方々には、謹んでお悔やみを申し上げます。

本施設の整備にあたりましては、皆様の卓越した建築技術等が随所に生かされておられ、一流アスリートが安心して利用できる施設が、心待ちにしているところであります。

結びに、新しい年が、皆様にとりまして幸多き年となりますよう祈念申し上げます。

大隅」が本年三月には完成する予定でございます。

「ジャパン」という冠を称した壮大な名称であり、また2020年の東京五輪に向け、台湾陸上代表チームのホストタウンにも選定されていることから、国内外の一流アスリートが本町を訪れる体制が整って参りました。この絶好の機会を活かし、一流アスリートから一般の愛好者までが気軽に楽しめる体制づくりに進めてまいります。

本施設の整備にあたりましては、皆様の卓越した建築技術等が随所に生かされておられ、一流アスリートが安心して利用できる施設が、心待ちにしているところであります。

結びに、新しい年が、皆様にとりまして幸多き年となりますよう祈念申し上げます。

皆様方におかれましては、夢と希望に満ちた平成三十一年の新春を健やかに御迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと六月から七月にかけての西日本豪雨や、九月の北海道胆振東部地震などにより多くの方々がお亡くなりになられたという痛ましい災害が相次いで発生した年でございま

した。

平成の出来事

鹿児島副支部長 川井田 哲



今年は何号が変わります。平成の時代を振り返ってみたいと思います。まず最初に思い付くのは自然災害が多かったということ。平成三年の長崎県雲仙普賢岳の大火砕流に始まり、五年にはわが鹿児島県でも八六水害という豪雨に見舞われました。その時は二〇〇年に一度の災害という言葉も耳にしました。最近では全国どこかの地域で毎年水害が起きています。今までに経験した事がない危険が迫っています。このように最近のニュース言葉にはちよつとギョツとします。

年頃にはバブル崩壊があり、三年には中央省庁の再編がありました。そしてその後の市町村合併にもつながって行きました。

北薩支部長 本田 和幸



科学・文化の分野では、身近なところでパソコンやポケベルから始まり携帯電話、スマホに至る通信機器の普及が凄まじく、これ無しではやっていけない時代になりました。書類や図面も勿論ですが、分からない事は何でもインターネットに頼るようになり、入札も電子入札になりました。その他、人間の遺伝子のことから宇宙の解明といった専門分野はどんどん進んでいるようです。

明けておめでとう。皆様におかれましては健康やかな年の始まりをお迎えのこととお喜び申し上げます。今年も宜しくお願ひ申し上げます。スポーツの分野では来年は二度目の東京オリンピックも開催され各種競技で新しいヒーローが生まれつつあり楽しみなことです。愈々五月に変わる元号が何になるか想像するのと同時に、次の時代が災害が少なく多くの人が安んずる豊かな気持ちになれるような時代になる事を期待したいものです。

結成当初、四名でスタートしましたが、二十周年を迎えた今では二十八名まで増えました。会員の職種は会社員・公務員・金融マン等様々で、年齢も二十代から七十年代まで幅広く、色んな話で盛り上がっています。本会の主たる事業として標語事業があり、今年も宜しくお願ひ申し上げます。発足当初数年は、ただ、親交を深めるだけの会でしたが、会員も徐々に増えたことから、社会的貢献的な事業が出来ないか画策しました。そこで、会員に、小・中学校の先生も参加いただき、子供たちから標語を募り、選考の上表彰して、地区

内の四カ所に設置した掲示板に作品を展示し、地域に紹介する事業を始めました。今年もよい作品が選ばれたね」との声を聞くと、直後の例会では、いつもより盛り上がるように感じております。また、前記しましたが、今年が二十年の節目に当たり小中学校三校に椅子を寄贈しました。これは、必要に応じて使用するの基より、平日頃、子供たちが触ることで適切な使用方法や、勾配・段差の大変さを学んでもらいたいとの思いから贈りました。

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。今年度も私共五回目の年男を無事に迎えることができ、ありがとうございました。もう六十歳、まだ六十歳と自分に都合のいいとらえ方で頑張りたいと思います。私は高校、大学の建築科を卒業し、県外の設計事務所に勤務し、父親の

病気をきっかけに実家に帰って来ました。振り返ってみると早いもので三十八年間、皆様のおかげで建築の仕事をしていただき、結婚をして三人の子供に恵まれて育てきました。ここ三十年余り田舎の状況も様変わりし、職人さんも沢山いて新築住宅に追われたりもありませんが、年を追うごとに技術者、技能者の人材不足でなかなか仕事が片付かなくなり、これからの先行きが不安になります。プライベートでは八名で毎月続けている飲み会が三十年を超えました。今までどれだけ使ったか

は数えないことにして、たまの奥様方のご機嫌取りの夫婦同伴温泉旅行が楽しみになりました。後はたまのゴルフと初心者と頭を動かしています。練習なしのゴルフは三桁ばかりですが気分転換にはいいようです。ドローンは飛ばすのが精いっぱいまだまだ撮影の練習まではいきませんが、そのうち遊びや仕事で役に立つたらと思っています。まだ人生はなたれ小僧です。これからは慌てず騒がずゆつくりと歩いていけたらと思っています。最後にありますが、会員の皆様のご健康とさらなる飛躍を祈念させていただきます。

亥年、十二番目。私と地域と企業。

南薩副支部長 川路 洋人



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健康やかに新たな年をお迎えのこととお慶び申し上げます。私は生まれも育ちも、そして今も指宿市の池田地区。池田湖を挟んで開聞岳を望む田園地帯です。コンビニやスーパー等もないこの地域では、十年ほど前から小学校の複式学級化が懸念されましたが、それからあつと

何よりも驚いたのは地震災害です。地震国の日本は、中程度では枚挙に暇がありませんが、平成七年に発生し、六四〇〇名余りの死者を出した阪神・淡路大震災は、生涯最大の地震かと思っていました。しかし、それ以上の地震がありました。二十三年の東日本大震災です。地震後の津波はリアリティで画像を見ましたが想像を絶するものでした。二十八年にはお隣の熊本県でも大きな地震があり熊本城始め多くの被害を受けました。その他にも事件としては、平成七年の地下鉄サリン事件や十三年のアメリカでの同時多発テロ事件など思っても見ないような事があり震え上がりました。日本の政治・経済の方面では平成元年四月に消費税が三%でスタートしました。三

少となっていました。調べた数字を見て唖然。高齢化と相まって、児童の数が減るのは当たり前の結果です。私達建築業界を取り巻く環境もずいぶん前から人材や人手の不足に悩まされてきました。政府は昨年、外国人労働力の受け入れを拡大する政策を決定しましたが、私の会社の問題解決にはいかはなさか疑問。ましてや、地域の困ったは解消されません。今年の干支は十二支最後の亥。来年からのさらには新しいスタートへ向け、悩み続ける一年になりそうです。

私は地元の建築関係の仲間と街並みと建築物を探索して回っています。最初は二〇〇〇年前後に八人でヨーロッパ四か国その後、上海・蘇州。しばらく間が空き六年ほど前からまた復活して、姫路、広島、東京、長崎、名古屋として昨年十一月には、台湾を見て回りました。それぞれ、思い出はありますが、最初のヨーロッパでは、イタリヤ(ベニス、ベローナ、ミラノ)スイス

街並み建物巡り 始良・伊佐副支部長 末廣 浩二



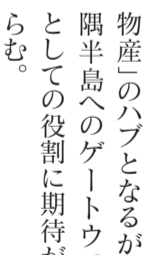
最新のものが入り交り、今からどんどん発展する雰囲気だ。タワークレーンが何台立ち上がっているか数え切れないうらみの時でした。六年前からの姫路は、姫路城平成の大改修、広島は世界遺産宮島、東京は筑波の建築研究所、長崎は世界遺産産屋敷、名古屋は名古屋城本丸御殿建築、そして昨年の台湾は、国立台湾大学社会学部棟、九分、台北市立美術館、市立図書館北投分館など見て回りました。建築物および街並み巡りは、同じ視点を持った人たちと見て回るので、色々な意味で楽しく、ためになります。また、これからは機会があれば参加したいと思っています。

「きらめく大隅路」 鹿屋副支部長 林 正英



垂水市浜平地区にプレオープンした「南の拠点整備事業」に携わらせていただいた。産学官が一体となり事業を進めている。今後、鹿屋体育大学と連携し、マリンスポーツの拠点化も目指す。この道の駅は「防災」、中山間地と中心市街地を結ぶ「交通」。地元の「観光・物産」のハブとなるが、大隅半島のゲートウェイとしての役割に期待が膨らむ。

まずは道の駅から東に向かうルート。八千代伝の「猿ヶ城溪谷蒸留所」でちよつと一杯。標高五五〇mの高峠には大野原地区(うのばい)がある。ここでは森がはぐくむ村の文化を体感できる。森林・湧水ツアーで深呼吸。里人と触れ合える集落内フットパスで身も心もほっこりしたら、室田志保さんの薩摩ポタン工房でその美しさに溜息。次に錦江湾沿いに南下するルート。旧鹿屋市立菅原小学校跡をリノベーションした「ユクサおおすみ海の学校」が開校。錦江湾を一望する絶好のロケーションの中で、滞在



新年のご挨拶

種子島支部長 日高 政浩



平成三十一年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

また皆様方におかれましては、希望に満ちた新年をお迎えの事と存じます。

昨年もおつとという間に一年でした。年々短いように感じております。年間を通して中村会長をはじめ、各支部長役員の方々に色々と御指導頂き、誠にありがとうございます。そして種子島

支部の会員の皆様には協会活動に御理解・御協力をいただきお世話になり書面をもって厚くお礼を申し上げます。

さて、今年五月から新元号になります。いったいどのような元号になるか今から楽しみです。とうとう三つの元号を生かせることとなりました。

平成生まれの人からみれば、昭和生まれの人はひと昔前の人たちですが、さらにもうひと昔前となつてしまします。少し寂しい感がありますが、昭和生まれを誇りに持ち一年間健康で頑張りたいと思います。

余談ではありますが、

家内の母が昨年八〇歳になりました。この母が

びつくりするくらい元気でとうてい八〇歳には見えません。元気の秘訣は何かという畑で採れる野菜を子供達や近所に分けて、「おいしい」と言ってもらう事が一番うれいようです。それと朝の海岸の散歩です。時には

海岸に獲物が流れついたりハマグリが採れたり海岸近くの山菜が採れたりします。

義母は自然の恵を受けて心も体も元気です。年老いたらそういう生活に憧れます。

最後になりましたが、平成三十一年(新元号? 元年)が皆様にとつてもさらに良い年になりますよう御健康と御多幸を心からお祈り申し上げます。

ものづくりの愉しさを

奄美副支部長 政 和豊



昨年の暮れに、とある建築賞の現場審査に立ち会う機会がありました。

その案件は、弊社が施工した六階建てのオフィスビルで、設計監理業務を鹿見島大学が担当しました。

来島した審査員から「大学側が設計監理業務まで行う意義は?」と問われ、「今回は少し特殊な事例かもしれませんが、建築学科の学生さんと一緒に、ものづくりの現場を

設計段階、現場段階、完成・竣工式と、建築が二次元から三次元へ具現化されていく醍醐味をしっかりと彼らが実感(体感)出来た事が、この上ない素晴らしい経験となつたのでは、とコメントする立場に無い私が、審査員の方々に自分の想いを伝えていました。

完成したその建物の佇む姿は、洗練されたシンプルな構成で、外観・内観を問わず日々変わり行く街並みに、主張しすぎず、どこことなく元気を与えてくれる香りがします(奄美大島に古くから現存する、高倉の様式に似た形をしているからかも知れません)。

私も、思い起こせば三十年前、仕事としての建築が好きになったキッカケが、ものづくりの現場を通して、竣工式での施主様を始め関係者一同が労をねぎらい喜ぶ姿を見ていたからであり、建築の道に進む自分の原点となりました。

「ケンチク」に携わる関係者の想いは人それぞれですが、今の我々の時代から成長した未来の建築を担う彼等(大学生の時代へ、「ケンチク」を通してパトンをしっかりと手渡せる様に、これからも「ものづくりの愉しさ」を沢山の方々にお伝え出来ればと考えています。

新しい年を迎え、今年も「安全に健康に留意して」仕事に邁進したいと思っております。

年男のコーナー

二〇一九 亥年

「おかげさま」で五十二年

鎌田建設(株) 鎌田 善政



新年あけましておめでとうございます。大学二年になった昭和

四十二年四月二日に十九歳で商売を始め、今年で五十二年目を迎えます。「おかげさま」の社是のもと今日まで企業を続けてこられたのも社員をはじめ地域の皆様の御協力があったの事です。息子二人が後

還暦を迎えて

牧迫建設(株) 牧迫 英敏



新年明けましておめでとうございます。私もついに、還暦を迎えることになりました。大病することなく、大きな怪我も経験することもなく丈夫な身体を授けてくれた親に感謝しています。若いころは、あまり希望もなく早く還暦を迎えたいと思っていました。

私は、大学を卒業後すぐに弊社へ帰って働くことになり、まずは建築現場の管理から、昼間は工程や納まりの打合せ、職人が帰ると施工図の作成、まだ手書きでしたので毎日、睡魔との闘いでした。工事が完成した時の喜びや達成感、現場毎に、それぞれ違う感情に浸り、自分の生きた証や財産を残しているように感じ充実していました。

私が四十二歳の時に両親を亡くすと言う思いもよらない出来事により、跡を継ぐことになった時は、色々な方々に支えて頂きました。長くて短かったこの六十年で、お世話になった方々への非礼の数々は還

年男を迎えて振り返る

(株)木落建設 木落 孝作



新年明けましておめでとうございます。月日が過ぎるのは早いもので今年の亥年で四回目の年男を迎える事になりました。

振り返りますと二回目は十二才の小中学生でしたが勉強よりも遊びに夢中で、公園では野球やサッカー、自宅ではプラモデル作りに励んでいるような毎日で将来何になりたいとか漠然としていたと思います。

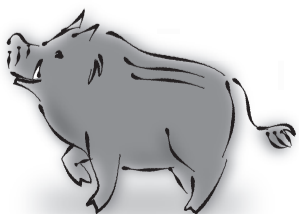
最後にありますが年齢より老けて見られる私ですが以外に見た目よりまだ若いので猪突猛進にて仕事、協会活動に精進して参りますのでご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

亥(いのい)に関する豆知識

ここではニホンイノシシについてご紹介します。

- ・鯨偶蹄目イノシシ科の哺乳類です。
- ・豚の原種で、肉は牡丹・山鯨と呼ばれ食用です。ちなみに山鯨は獣肉を食べることは禁忌であったことから、言い換えたものです。
- ・北海道と沖縄(リュウキュウイノシシが生息)以外に生息しています。
- ・成獣になると、体長は100cm~170cm、体重は80kg~180kg程度の大きさです。
- ・子供の頃は綺麗な縞模様が体色に現れていて、それが瓜の模様非常に似ていることから、幼いイノシシはよく「うり坊」と呼ばれます。
- ・いざとなると、走れば時速40km、垂直ジャンプならば1m以上を飛ぶという脅威の身体能力をみせます。
- ・思いがけず、イノシシと出会ってしまった場合は、背を向けて走って逃げると本能的に追いかけてくるので、目を見たままで決して背を向けずに後ずさりして距離をとりましょう。
- ・猪も七代目には亥(いのこ)になる

変わらないように見えても、長い年月の間には、それなりに変化のあることのとえです。ちなみに、豚は野に放つと数世代後にはイノシシに戻るとか戻らないとか...



弓場 昭大 (生年月日順敬称略)



牧迫 英敏 (株)木落建設



深野木 信 (株)深野木組



中山 幸一 (株)新生組



鎌田 善政 (株)鎌田建設



中村 明人 (株)協和建設



有嶋 隆司 (株)第一建設

昭和三十一年生まれの会員

昭和三十三年生まれの会員

昭和三十四年生まれの会員

昭和四十六年生まれの会員

晴れのご受賞 心からお祝い申し上げます

国土交通大臣表彰

田頭 講治 (株)田頭建設



昨年七月、当協会より推薦を頂きまして、国土交通大臣表彰を賜りました。これも偏に会員皆様方と事務局の方々のご

支援のおかげ様と心より感謝申し上げます。平成元年に三十六歳で父から会社を引き継ぎ早いもので三十年、今年は息子に代表を譲り肩の荷を降ろそうかとする矢先に、この様な表彰を頂き、心置きなく次世代にバトンタッチ出来そうです。

六十七歳、まだ心身共に元気ですので、これまでとは違った角度から人様のお役に立てたらと模索しているところですので、これからもよろしく願っています。



表彰状

田頭 講治 殿

あなたは多年にわたり建設事業の振興に尽力され公共の福祉の増進に多大の貢献をされましたここに記念品を贈り表彰します
平成三十年七月十日
田頭建設 石井 啓一

新安全標語・キャッチフレーズが決定!

昨年、十二月十五日に『安全標語等選定委員会』を開催致しました。九月初めから十月末までの募集期間に会員企業の従業員をはじめ一般の方々から寄せられた安全標語二二作品、キャッチフレーズ一六〇作品について厳正な審査を行い、平成三十一年度から使用する安全標語の最優秀賞(懸垂幕)には早崎洋一様の『声かけて みんなで築こう 無災害』、同優秀賞(横断幕)には、川井田美代子様の『基本に忠実 いつも初心で 安全作業』、キャッチフレーズの最優秀賞には手塚春香様の『地域とともに 輝く未来へ』が決定致しました。

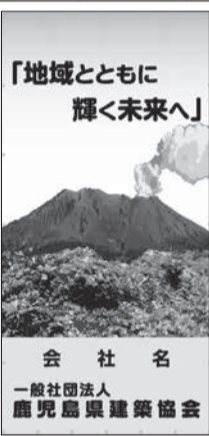


建築現場の安全意識の高揚、協会及び会員企業のイメージアップにお役立てください。

基本に忠実 いつも初心で 安全作業

一般社団法人鹿児島県建築協会

▲スローガン
横断幕



声かけて
みんなで作ろう 無災害

一般社団法人鹿児島県建築協会

▲スローガン
懸垂幕

消費税法改正について

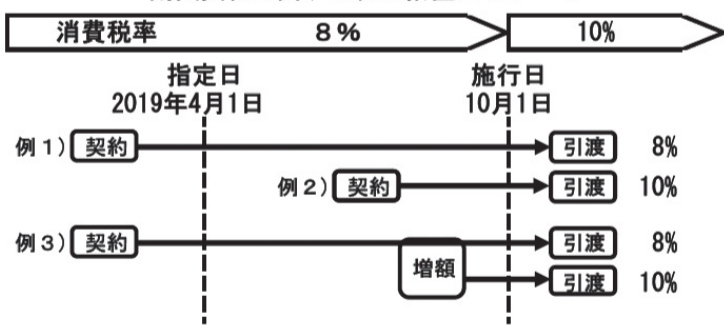
平成30年10月16日(火)建築協会2階会議室において九州経済産業局の担当官、当協会顧問会計事務所の担当者を講師としてお招きし「消費税の講習会」を開催致しました。

平成元年の消費税(3%)導入以来、平成9年(5%)、平成26年(8%)と税率が変更され、今年10月からは皆様もご存知の通り、10%への引上げが予定されており、「消費税率、地方消費税率の変更」、「軽減税率の導入」、「帳簿及び請求書等の記載と保存」などの改正がございます。

この他、経過措置の中には、平成26年4月の消費税率引上げ時と同様に、『請負工事等』に関するものがありますので一部抜粋してご紹介致します。

※ご不明な点につきましては、御社の顧問税理士等におたずね下さい。

請負契約に関する経過措置のイメージ



※1 指定日(4/1)以降の契約でも、施行日(10/1)より前に引渡が完了したものは8%
※2 指定日(4/1)以降に増額になり、施行日(10/1)以降に引渡が完了したものは増額部分のみ10%

平成31年(2019年)10月1日以後に行われる資産の譲渡等に適用される消費税率等に関する経過措置の取扱いQ&A

全てのQ&Aは国税庁ホームページ/刊行物等/パンフレット/手引/消費税関係よりご覧ください。【基本的な考え方編】より

(契約書等のない工事)

問16 工事の請負等の税率等に関する経過措置の適用を受けようとする場合、契約書その他の書類を作成しなければならないのですか。

【答】工事の請負等の税率等に関する経過措置は、26年指定日(平成25年10月1日)から31年指定日の前日(平成31年3月31日)までの間に工事の請負等に係る契約を締結し、31年施行日(平成31年10月1日)以後に当該契約に係る目的物の引渡し等が行われる工事の請負等について適用されます(改正法附則5③、16①)。

契約書その他の書類を作成しているかどうかは、この経過措置の適用を受ける要件となっておりませんが、経過措置の適用があることを明らかにするためには、契約の締結時期や工事内容が経過措置の適用要件を満たすことについて契約書その他の書類により明らかにしておく必要があります。

(下請工事)

問18 当社では、受注した建設工事の全部を下請会社に発注しました。当社が受注した建設工事について、工事の請負等の税率等に関する経過措置が適用される場合、下請工事についても、この経過措置が適用されますか。

【答】工事の請負等に係る契約に基づき行われる工事について、工事の請負等の税率等に関する経過措置が適用されるかどうかは、個々の取引により判断することとなります。したがって、照会の下請工事については、その契約の締結時期や工事内容が、この経過措置の適用要件を満たす場合には、経過措置が適用されます。

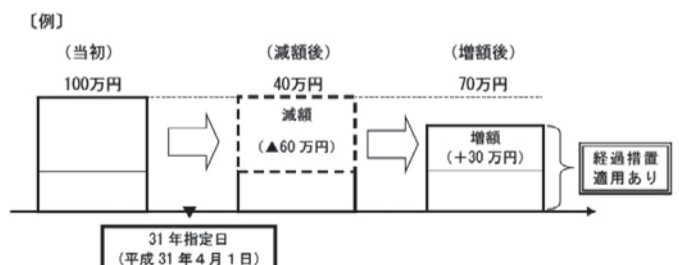
(経過措置適用工事に係る請負金額に増減があった場合)

問25 当社が受注した工事の請負等の税率等に関する経過措置が適用される工事の中には、当初契約の請負金額を一旦減額し、その後増額する場合や、これとは逆に当初契約の請負金額を一旦増額し、その後減額する場合があります。このように、請負金額の増減が31年指定日(平成31年4月1日)以後に行われた場合、経過措置の適用関係はどのようになりますか。

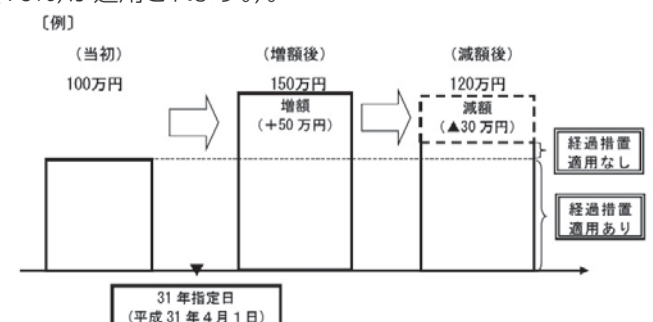
【答】工事の請負等の税率等に関する経過措置が適用される工事について、31年指定日以後に対価の額が増額された場合には、その増額部分については、この経過措置は適用されません(改正法附則5③、16①)。

したがって、経過措置が適用される工事に係る請負金額(対価の額)について、31年指定日以後に変更が生じた場合には、当初契約の請負金額との差額により次のとおり取り扱われます。

- (注)1 31年指定日の前日(平成31年3月31日)までに締結した変更契約により当初契約の請負金額を増額又は減額している場合には、その変更後の請負金額を基に判定することとなります。
 - 2 増額の理由が、追加工事など当初の工事契約において定められていなかったことによるもの場合には、このようには取り扱われず、その追加工事ごとに経過措置が適用されるかどうか判断することとなります。
- ① 最終の請負金額が当初契約の請負金額より少ない場合
最終の請負金額の全額が経過措置の適用対象となります。



- ② 最終の請負金額が当初契約の請負金額より多い場合
当初契約の請負金額を超える部分については、経過措置が適用されません(新税率(10%)が適用されます。)



熊本研修視察レポート

株式会社深野木組 深野木 託



平成三十年八月三十日(水)、建築協会では川井田哲副会長を団長とした総勢三十九名による熊本研修視察を実施した。これは鹿児島県庁のご支援によるもので、特に熊本城復旧工事現場視察は、鹿児島における城郭復元等に係る技術向上に資することを目的とした視察・調査の為に立入許可を熊本市に申請いただき実現したものである。ご尽力くださった県住宅政策室の渡島秀夫技術補佐と同営業室の久永眞一技術主査も同行された。

■熊本城復旧工事現場視察

二〇一六年四月に発生した熊本地震で大きな被害を受けた熊本城の復旧工事現場の視察を行った。天守閣を始め多くの櫓や石垣が被害を受けており、全体の復旧には二十年を要する見通しである。

復興のシンボルでもある天守閣は早期復旧のため最優先で工事が行われており、視察時点で既に三階部分まで足場が解体されていた(写真①)。二〇一九年度に大天守外観の復旧完了を目指している。軽量化やプレスによる耐震補強工事も併せて行っている。また、現状城内のほとんどが立ち入り規制区域となっており、熊本城の復旧状況は遠くから眺めることしかできないため、近くから見学できる仮設の見学通路の整備も計画されている。

機で回収され、仮設鉄骨構台が櫓を抱え込むように設置されている。石垣の下から仮設構台を組むことができず、また城内全体が特別史跡のため掘削ができなかつたためこのような計画となった。本丸側地表にコンクリートを打設し、その上で鉄骨を組み、スライドさせることで鉄骨アームを差し込む方法がとられた。

プレハブ倉庫の建設が城内各所で進められている。倒壊した櫓の回収部材や解体した部材は倉庫で保管・整理され、再利用可能な部材は補修し復旧を行う予定。傾きや破損の生じたものについても解体復旧が行われる。

石垣には崩壊の他、はらみ等の被害が発生している。崩壊した部分を優先的に復旧が進められており、はらみやズレが確認された石垣には継続計測(写真②)をしながら解体範囲の検討・設計を行い工事に着手する。崩壊が懸念される部分についてはネットや土囊、シートの上からモルタル吹付などによる補強工事(写真③)も行われている。

■くまもと型復興モデル住宅視察

県内最大の仮設住宅団地「益城町テクノ仮設団地」内に建設された三棟のくまもと型復興モデル住宅(写真④⑤)の視察を行った。

くまもと型復興住宅は、県産材を使用し、地震に強く、良質でコスト低減に配慮した住宅で、熊本県や県内の工務店や木材関係団体からなる協議会が呼びかけ企画された。この取り

組みは大きく二つあり、モデル住宅の建設とプラン集の発行である。今回視察を行ったモデル住宅はこの取り組みで建設されたもので、県内の建築士・設計事務所、住宅事業者や大工・工務店、林業・木材関係者、建材流通業者等が連携した三グループがそれぞれのくまもと型復興住宅を建設している。

くまもと型復興住宅の特徴として、低所得者の自立再建支援のため1000万円住宅としながら、熊本県産材の使用や耐震等級3、HEAT20 G1グレード、BELS認定の取得などで建物の性能を保証(写真⑥)し、安全で快適な暮らしを実現する取り組みが挙げられる。

■応急仮設住宅、災害公営住宅視察

宇土市境目団地のプレハブ応急仮設住宅(以下プレハブ仮設)及び木造応急仮設住宅(以下木造仮設)、災害公営住宅の視察を行った。

阪神大震災以降大量供給され復興に貢献してきたプレハブ仮設(写真⑦)であるが、かねてよりその居住性は問題視されており、東日本大震災の際には熱中症等の健康被害も多数報告されている。熊本型木造仮設(写真⑧)はそれらを改善するものとして計画されている。

境目団地ではプレハブ仮設と木造仮設の両方が建設されている。従来の応急仮設住宅では工期短縮のため、主に木杭や鉄骨杭の基礎となっているが、熊本型木造仮設では鉄筋コンクリートのべた基礎を採用することで、耐震性・耐久性の

向上を図っている。また軒の出を80cmと長くすることで雨対策と共に日射遮蔽を高めている。構造材に熊本県産木材、内装床材や外壁にも県産無垢杉板を使用。県産草の畳も採用している(写真⑨)。屋根・壁の断熱材には木質繊維系セルロースファイバー(写真⑩)、さらに住戸間の界壁にも防音性能を高める目的で同材を充填している。基礎断熱やアルミ樹脂複合サッシを使用し、少し手を加えれば、ZEH基準もクリアできるレベルだそう

だ。プレハブ仮設の入居者からは「エアコンが効かない」等の声もあるが、木造仮設の入居者からは「夏外出から帰宅しても熱がこもっていない。そのまま住み続けたい」という声が多く聞かれるという。サーモカメラで調査したところ、プレハブ仮設では熱橋や隅角部での熱の流入が確認された(写真⑪⑫)が、木造仮設ではこれらが確認できず(写真⑬)、居住性が大きく改善されていることが推測される。

プレハブ仮設は今年度中に撤去予定。木造仮設は防蟻防腐処理以外建築基準法に適合しており、譲与予定(内閣府の決定が必要)で計画されている。今後はそのまま市営住宅として管理していく予定で、仮設入居者(被災者)と新規入居者が混在することになるそう

同じ境目団地に建設された災害公営住宅(写真⑭⑮⑯)は、市営住宅の用途廃止後公園として使われていた土地を中心に「くまもとアートポリス事業」として計画。自立再建が困難な被災者に、安心して暮らせる住環境を提供することが趣旨。行政が業界と連携して低価格住宅を組織的に建設、プライバシーを確保しながら孤立を防ぐためにふれあいを重視。積

極的なコミュニケーションが取れるような計画としている。入居者は高齢の単身者や高齢者夫婦を想定しており、平屋建てで熊本県産材を使用したバリアフリー型住戸。住戸内部の生活の気配がにじみ出る、内と外とのつながりを重視した設計になっている。周辺地域を含めた居住者が利用する交流型の集会所が併設(写真⑰)されている。

■おわりに

復興のシンボルである熊本城復旧工事と、被災者の自立再建のための応急仮設住宅や災害公営住宅、くまもと型復興モデル住宅の視察を同時に行えたのは震災復興を考える上で非常に貴重な機会となった。視察を終えての車中で、渡島氏より鹿児島県での応急仮設住宅の現状や熊本型と鹿児島型仮設との違いの説明があった。氏の木造仮設への熱意と共に建設協定を結んでいる建築協会への期待の大きさが伝わってきた。

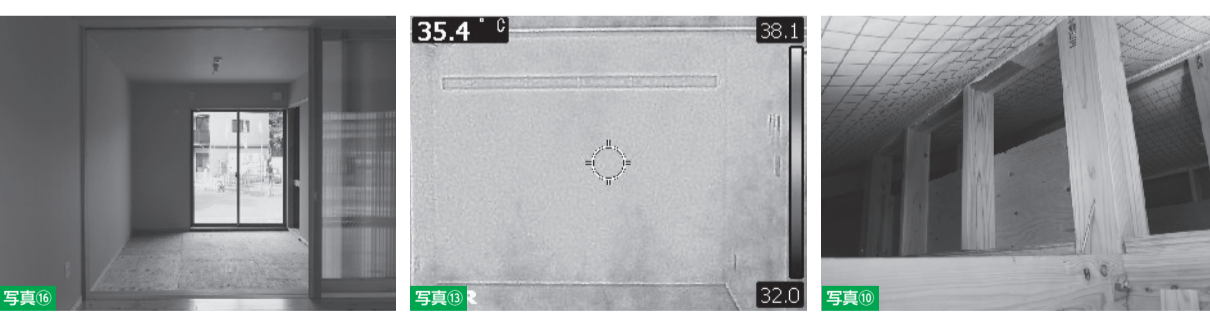
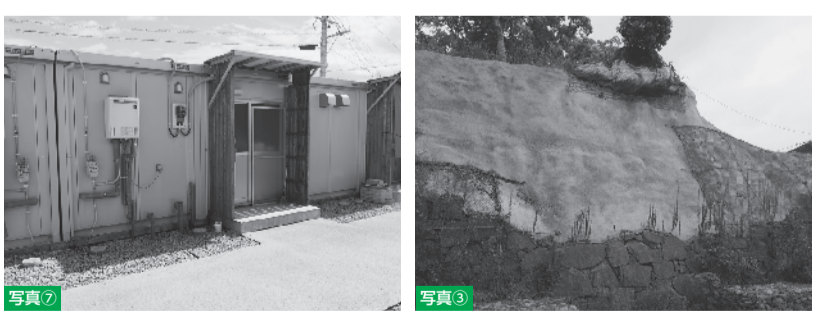
今なお多くの被災者が暮らしている仮設住宅には、居住性や快適性、耐震性等の面で住宅と遜色ない性能が必要だと改めて感じられた。プレハブ仮設と木造仮設の居住性の差は歴然で、長期に渡る仮設住宅での生活の中、被災者の負担を軽減し自立再建を促すためにも木造仮設住宅の普及がより一層期待

されるように思う。自立再建支援のためのくまもと型復興住宅や災害公営住宅もまた、低価格ながらも高い居住性を備えたものであり、単に早い復旧だけでは、被災者の本来の生活を取り戻すための取り組みであると感じられた。

昨年西日本での豪雨や北海道での地震により、各地で応急仮設住宅が建設された。いざという時に備え、建築協会も体制を整える必要を改めて認識した。視察内容を報告する機会をいただいたことに感謝してレポートの終わりといたします。

熊本の気候に併せた仮設住宅は、県産木材や畳の使用、コミュニケーションに配慮した計画で工夫されているが、プレハブと木造の違いは見て明らかで、木造の方が優れているように感じた。しかし、断熱性や仕上の防音問題も

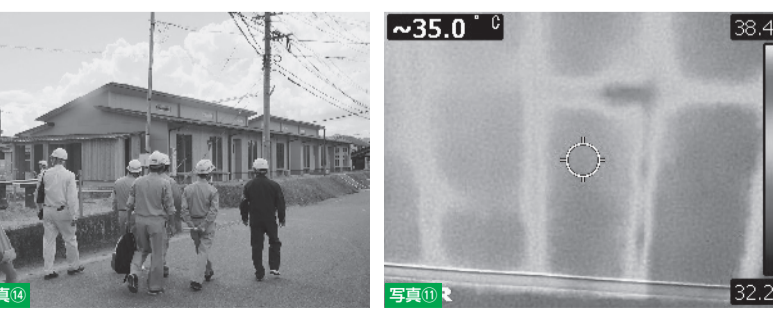
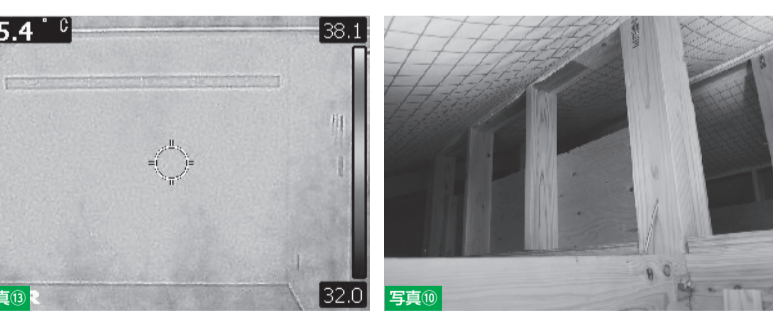
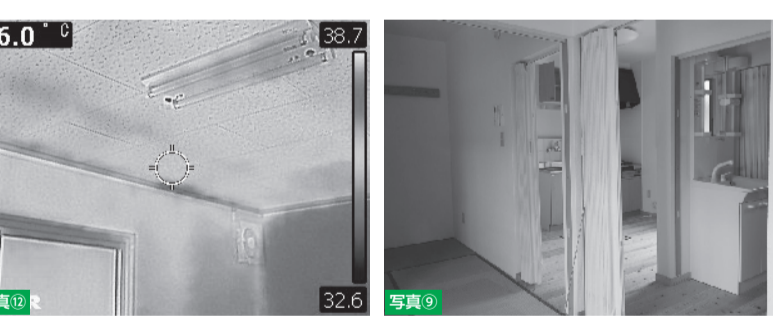
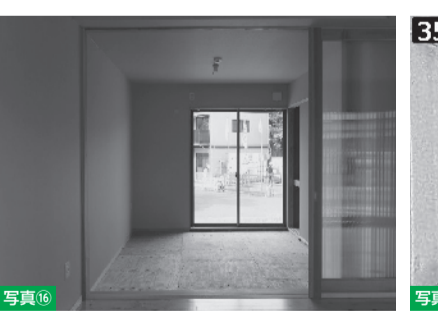
※熊本城の写真(①～③)は、視察・調査を目的に撮影された写真を掲載しました。(転載禁止)



渡辺組 宮内 彩乃 さん

丈夫な家づくり

熊本の気候に併せた仮設住宅は、県産木材や畳の使用、コミュニケーションに配慮した計画で工夫されているが、プレハブと木造の違いは見て明らかで、木造の方が優れているように感じた。しかし、断熱性や仕上の防音問題も



2018かごしま
住まいと建築展
〈工事委員会〉
(10月19日
~21日)



◀ 労務委員による
安全パトロール
〈労務委員会〉
(10月23日)

協会の動き



◀ 平成30年度通常総会
懇親会
(5月25日)

全国安全週間説明会▶
〈労務委員会〉
(6月26日)



建築専門業団体との協議会▶
〈研究開発委員会〉(9月10日)



▲ 合同安全パトロール〈労務委員会〉(11月21日)



フルハーネス型安全帯▶
使用作業特別教育
(建災防県支部共催)
〈労務委員会〉
(12月20日)



◀ 「建築の日」ボランティア〈各支部〉
北薩支部(12月1日)他



◀ 自民党県議団
建設問題調査会
との協議会
〈総務委員会〉
(12月7日)



▲ 鹿児島県との協議会〈総務・工事委員会〉
(10月18日)



▼ 消費税講習会〈総務委員会〉
(10月16日)

平成三十一年

新春建築四団体合同賀詞交歓会

新春恒例の「新春建築四団体合同賀詞交歓会」が一月四日城山ホテル鹿児島にて開催されました。初めに主催者を代表し電設協会会長島田実様の挨拶のあと、来賓の方々より祝辞を頂き、来賓や各団体がハッピを着て鏡開きが行われ、空調衛生工事業協会会長福山康洋様の乾杯発声の後、出席者はしばし歓談をしました。

交歓会には来賓をはじめ建築四団体会員が多数出席し、盛大な催しとなり新年の門出にふさわしい輝かしい幕開けとなりました。

安全祈願祭第四十二回安全大会

労務委員会の事業の一環である安全祈願祭及び第四十二回安全大会が鹿児島県護国神社にて開催され、約百名が参加しました。厳かに執り行われた安全祈願祭では、来賓・建築専門業団体・建築協会の代表が玉串を奉げ安全を祈願しました。

その後、場所を講堂に移し、建築協会会長の挨拶で始まった安全大会では各種表彰の授与や来賓の方々より祝辞を賜った後、大会宣言をもって締めくくられ今年一年の無事故・無災害を誓い合いました。各種表彰者の受賞は次の通りです。

(敬称略)

☆平成三十年度 建設業労働災害防止協会 会長表彰

功労賞
中村 明人
協和建設株式会社
代表取締役

☆平成三十年度 建設業労働災害防止協会 優良賞(団体賞)

建設業労働災害防止協会
鹿児島県支部 建築分会
鹿児島支部 建築分会

☆平成三十年度 一般社団法人鹿児島県建築協会会長表彰

功績賞
綾 昭一郎
南建設株式会社
尾賀 義史
株式会社新生組
高橋 純博
大丸建設株式会社
中野 克徳
内村建設株式会社
野村 健二
株式会社渡辺組
穂森 史郎
ヤマグチ株式会社
山之内 雄一
株式会社植村組
米徳 昌司
大塚建設株式会社

安全衛生管理優良賞

徳田建設株式会社
工事名:H28(線)向花
小学校校舎(13号棟
他)大規模改造建築
(1工区)
(発注者:霧島市)
南建設株式会社
工事名:H28(線)向花
小学校校舎(13号棟
他)大規模改造建築
(2工区)
(発注者:霧島市)

渡辺組・米盛建設・豊
明建設特定建設工事共
同企業体

☆安全標語 最優秀賞

早崎 洋一
〔声かけて みんなで築こう 無災害〕
優秀賞
川井田 美代子
〔基本に忠実 いつも初心で 安全作業〕

☆キャッチフレーズ 最優秀賞

手塚 春香
〔地域とともに 輝く未来へ〕

新入会員紹介

よろしくお願ひします
(支部順)



福永 昭一
(株)福尚
〔南薩支部〕



島廻 芳文
(有)島廻建設
〔鹿屋支部〕





一般社団法人鹿児島建築協会
青年部会 部長 田島 功輔



新年明けましておめでとうございます。平素より私ども青年部会の活動に對しましてご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

また、昨年は自然災害が多岐にわたる中、被災された方々にお見舞い申し上げます。一日でも早い復旧、復興を心よりお祈り申し上げます。

昨年四月の総会より部長をさせて頂いたいただき、年度当初計画していた事業が各委員長を中心に実施されました。総務・IT、会員研修、活動の三委員会が構成される私ども青年部会でございますが、主だった事業を紹介いたします。

「WEB発信セミナー」のごしま住まいと建築展の中で実施をさせて頂いた高橋生や専門学校生等を対象とした建築施工の魅力や伝える「学生との交流会」と建築協会PRの「ブラス出展」などをそれぞれ開催いたしました。その他にも建築業界関連団体青年部や熊本県並びに宮崎県建築協会青年部との交流会などにも積極的に参加して交流

信をテーマとした「WEB発信セミナー」のごしま住まいと建築展の中で実施をさせて頂いた高橋生や専門学校生等を対象とした建築施工の魅力や伝える「学生との交流会」と建築協会PRの「ブラス出展」などをそれぞれ開催いたしました。その他にも建築業界関連団体青年部や熊本県並びに宮崎県建築協会青年部との交流会などにも積極的に参加して交流

が青年部会の意義であると考えます。本年も私ども青年部会は、活発かつ有意義な青年部会活動を取り組んでまいりますので、一層のご指導とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。また、本年も皆様にとって良き年、幸多き年となりますことを祈念申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。

青年部会会員募集

青年部会では会員を募集しています。詳細については、建築協会事務局までお問い合わせ下さい。

新入会員です よろしくお祈りします!



佐々木 祐輔
総務・IT委員会



塚田 哲也
総務・IT委員会



中村 俊仁
総務・IT委員会

総務・IT委員長 山口 秀典



新年あけましておめでとうございます。昨年建築協会青年部会ならびに総務・IT委員会へのご理解ご協力、誠にありがとうございます。さて、総務・IT委員

会では昨年「2000誌の発行」「WEB発信セミナーの開催」や各員会のサポート等、青年部会の円滑な運営ができるよう活動してまいりました。

2000誌では、各学校の先生方や学生等対外的に青年部会の活動や魅力が発信できる内容を充実させました。また、WEB発信セミナー業界全体の課題であります「人手不足・採用活動競争の激化」にスポットをあて、「新

卒採用基礎講座 求める人材の採用に向けて」というテーマで「学生が企業のどこを見て就職先を決めているか」等の講座と、「採用WEBサイトの重要性」についての講座、二部構成にて開催いたしました。

本年も引き続き、青年部会や業界が少しでも盛り上がり、活動してまいります。皆さま、ご支援ご協力のほど、よろしくお祈り致します。

会員研修委員長 内村 明高



新年あけましておめでとうございます。昨年より会員研修委員会を担っており、青年部会も例年同様、青年部会会員の素養を伸ばし、企業への成長につなげることを目的とした、経営者講習会を行いました。今回は「組織を動

かす目標管理「チェンジミーティング」と題し、社員をビジョン達成に巻き込むための考え方や手法を学びました。講師には株式会社ジョイワークスの田口光彦氏をお迎えしました。会員に自社の理念や課題、数値目標を持ち寄ってグループを作り、メンバーはその会社の社長や部門長になったつもりで、グループワークに取り組みました。どのような目標を展開していけば本場に会社のビジョンや中期目標が達成できるのか、真剣に研

究する機会を持つことができました。

また、十一月には宮崎県で行われました三県合同懇談会に参加しました。熊本県を含めた三県の青年部会同士、近年はお互いの事業への参加も進んでおり、刺激合う風土が根付いています。

今年も青年部会会員をはじめ、業界の発展に貢献できるような活動をしたいと考えています。ご指導、ご協力のほど、よろしくお祈り申し上げます。

活動委員長 川原 大地



新年あけましておめでとうございます。平素より活動委員会へのご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。活動委員会は、毎年十月に開催されます

「ごしま住まいと建築展」でのブラス出展と学生との交流会の事業に力を入れ、今回も県内の百名近い学生にご参加いただきました。

学生との交流会では新しい試みとして、学生からの意見が出やすいようグループごとの意見交換会を開催致しました。建築の魅力や建築の仕事に対する「思い」を伝える部会員の話に目を輝かせながら聞き入る学生の姿を拝見でき、建築業への就

労者増加という事業目的も少なからず達成できました。また、学生の本音等を聞くことができ、委員会としても今後の活動につながる大きな収穫が得られたのではないかと思います。

今年もメンバーと共に委員会活動に尽力してまいりますので、皆様からのご協力とご教示をいただければ幸いです。本年もよろしくお祈り致します。



定時総会/懇親会 (総務・IT委員会) (平成30年4月19日)



WEB発信セミナー (総務・IT委員会) (平成30年11月28日)



経営者講習会 (会員研修委員会) (平成30年9月20日)



三県合同懇談会(宮崎県開催) (会員研修委員会) (平成30年11月10日)



ごしま住まいと建築展 ブース出展 (活動委員会) (平成30年10月20日~21日)



ごしま住まいと建築展 学生との交流会 (活動委員会) (平成30年10月21日)

